



## 第5回授業改革実践研修会(会場:南海中学校)

平成24年12月10日(月)実施

### ◆「授業力向上につながる事後研究の方法を考える」◆

#### 1 公開授業及び研究協議

【1年 笹岡久乃教諭(英語) 2年 上甲真也教諭・川村真弘教諭(数学) 3年 岩松淑恵教諭(数学)】

##### 1 南海中学校授業研のねらい

- (1) 「学びあい」学習によるかわりあう授業づくりについて、授業実践の交流を図る。
- (2) 生徒の「学び」に焦点を当てた研究協議を通して、明日からのきめ細やかな教科指導方法を探る。
- (3) 研究アドバイザーの講話から、生徒指導の視点を授業改革に取り入れた「落ち着いた学校づくり」への実践を学ぶ。

##### 2 授業参観の仕方

- 見取りの担当班を事前に決めて、その班の生徒の学びについて参観する。
- 生徒の具体的な行動や変容を書く。(研究協議の題材になる)



##### 3 研究協議の進め方

- (1) **授業者より** 授業のポイントや「学びあい」学習への取り組み方などを説明する。  
学びから逃避している「気になる生徒」の提起する。
- (2) **参観者より** 各班の見取り担当から発表。  
授業や「学びあい」学習に取り組めていない「気になる生徒」の具体的な様子を語る。
- (3) **協議Ⅰ** 「気になる生徒」についてお互いの情報を共有。学べない因果関係に迫る。  
友人関係や、家庭背景、部活動での様子など広範な情報をもとに学べない理由を探る。
- (4) **協議Ⅱ** 知恵を出し合い、具体的な支援の方法を考える。

#### 2 講話 生徒指導の視点から考える授業改善 ～落ち着いた学校をつくるために～

【前岡山市立岡輝中学校長 森谷 正孝 氏】



##### 1 「こんな学校」からのスタート

- ◇ 生徒指導困難校  
(器物破損・喫煙・ロケット花火等なんでもありの状態)
- ◇ 学校だけで抱え込んだ生徒指導
- ◇ 「生徒指導に手いっぱい、研究まではとても無理」

発想を転換

「研究指定をきっかけに学校を変える」

##### 2 ヨコ関係の仕組みをつくる「新しい公共」型の学校

- 地域住民の学校運営への参画の促進
- 地域力を生かした学校支援
- 学校力を活かした地域づくり
- 学校を地域に開き、学校のありのままの姿を見てもらう
- 教師の頑張りや大変さをわかってもらう

##### 3 タテ関係の仕組みをつくる

- 保・幼・小・中の連携から一貫へ
- 岡輝版「子育て法」の作成  
(基本的な子育てや躾の方法を示した冊子)

##### 5 学校改革の究極は授業

- 生徒指導の原点は授業  
→つながる先は教室、授業
- すべての子どもの学びを保障する授業  
→協同学習

##### 4 生徒指導の基本的な考えの共有

- 厳しい生活背景をもつ子どもたちの増加  
(ネグレクト 虐待 DV等)
- 丸ごと受け入れる覚悟
  - 今を認める
  - 無視、排除をしない
  - 目線を下げる
  - とにかく聴く

すべての子どもとは

- ・ 授業を放棄している子ども
- ・ 教室と廊下をまたいでいる子ども
- ・ 地味で目立たない子ども
- ・ 学べていない子ども
- ・ 問題が易しすぎてつまらない子ども
- ・ 特別に支援を必要とする子ども等

◆ 教師の3つの覚悟 ◆

- ① 逃げない覚悟
- ② 自己責任を負わせない授業への覚悟
- ③ 丸ごと受け入れる覚悟

#### 【受講者の感想】

- ・ 研究協議においては、一人ひとりの子どもたちの課題や、子どもたちの学びについて、討議をしており、授業改革に向けて取り組む姿を学ばせていただいた。
- ・ 「一人ひとりの子どもを理解する。生徒指導の原点は授業」という森谷先生の講話や岡輝中のDVDの視聴から、授業改善の取り組みを勤務校で進めていく上で学ぶことができた。

概要

教科や領域における人権学習について実践交流を行い、成果や課題、手だてについて協議する。教科の授業実践について交流し合い、1年間の取り組みの成果や課題を振り返る。現在の自分の強み・弱みを把握し、めざす“わかる楽しい授業”及び具体的取り組みについて発表し合う。

■ 研修Ⅰ 「教科・領域における人権学習実践交流」

大事な視点

教科・領域の授業において「人権教育」をどう進めるか・・・ 成果物（抜粋）から

事実を教える

- ・ 何があったのか
- ・ 何が問題なのか etc

生活と結びつける

- ・ 具体的事例
- ・ 実物提示 etc

一人ひとりを大切に

- ・ 教師のかかわり
- ・ 子ども同士のかかわり etc

【成果】（児童生徒）：気づきや発見を通して児童生徒一人ひとりが自分の考えをもつことができた。自分や自分以外の人（もの、こと）に目を向けることができるようになった。  
 （教師）：日々の授業で行う人権教育の必要性、重要性に気づくことができた。

【課題】 教科の目標の達成をめざした学習内容及び学習活動の精選  
 他教科・領域との連携 → 年間指導計画（系統表）の作成

各教科・領域等全教育活動における人権教育の推進

● 人権学習にどこまで踏み込む？

● 1時間の授業の中のウエイトは？

～教科・領域における人権学習を進めるにあたって

- ★ 各教科等の独自の目標やねらいを達成することが第一義
- ★ 児童生徒に対して人権教育のめざす資質・能力をトータルに身に付けさせる
- ★ 総合的な内容構成をめざすとともに、特定の側面に焦点を当て、個別的・具体的な指導も必要かつ有効

指導内容構成のポイント★

■ 研修Ⅱ 「教科における授業実践交流」

■ 研修Ⅲ 「4年間のまとめ」

My Goal

「めざす」授業

- ・ 「できた！」の声が聞こえる
- ・ 全員が人の意見を聴き、自分の言葉で発表できる
- ・ 子ども同士で教え合い、互いに学び合う
- ・ 一人ひとりが大切にされ、自己肯定感を高められる

成果物（抜粋）から

具体的取り組み

- ・ わからないことをわからないと言える集団づくり
  - ・・・ 学級経営力の向上（良好な人間関係づくり）
- ・ 学習規律の徹底・・・ 子ども同士をつなぐ
- ・ 深い教材研究・・・ 子どもが主体的に考え取り組む活動の工夫  
 発問の工夫、見通しをもつ（ゴールを明確に）
- ・ 子どもの実態把握・・・ 子どもを見る目
- ・ 肯定的評価・・・ 褒める
- ・ C基準の子どもへの指導の具体的手立て
- ・ ノートづくり、板書の工夫 等

■ 閉講式



すべての経験は人をつくる！

- ・ 学び続ける姿勢をもつ
- ・ 広い視野で物事を見ていく
- ・ 苦手なこと（人）から逃げない

〈受講者の研修の記録〉

- ・ 今回明確になった今後の具体的な取り組みや手だてを実践していくようにする。そして、授業の中で集団づくりを行っていけるようにしたい。
- ・ 強みと感じられるようになった学習指導案の作成や他校との教科の連携については引き続き取り組み、さらに伸ばしていきたいと思う。
- ・ 次は10年経験者研修。これからの5年間にどれだけ成長できるか。自分への挑戦を続けたい。